



水中に仕掛けていたカニ籠で捕獲されたカメ（成田空港で）

滑走路周辺のカメ捕獲

10月下旬まで 4月から144匹

成田空港

成田国際空港会社（NAA）は9日、滑走路周辺で増加しているカメの捕獲作業を報道陣に公開した。4月にわなを仕掛け、これまでに144匹を捕獲した。

捕獲用のわなとして使用しているのは、水中に沈めるカニ籠と、水上に浮かべてカメがよじ登ると網に落ちる仕組みの「日光浴ワナ」の2種類。4月に滑走路周辺の調整池や放水路など計

7か所にカニ籠140個、日光浴ワナ4個をそれぞれ設置した。

作業を請け負っている認定NPO法人「生態工房」

（東京都）の片岡友美理事長（49）とNAAによると、捕獲したカメは国が緊急対策外来種に指定するアカミミガメ（ミドリガメ）133匹とクサガメ11匹。最大の個体は体長約27センチ、重さ約3.1キログラムで、10歳以上の個体が多いという。わなには様々な小動物がかかり、スッポンなどの在来種は逃がす一

方、アカミミガメをはじめ、クサガメやウシガエルなどの外来種は環境省の指針に基づいて駆除する。

成田空港では昨年9月、滑走路にカメが侵入し、「空飛ぶウミガメ」の愛称で知られる全日空の超大型機「FLYING HONU（フライングホヌ）」など計5機の出発が遅れた。今年4、5月にも誘導路でカメの目撃事例が相次いでいる。NAAによると、捕獲作業は10月下旬まで続ける予定だという。